

2008年度 第86回 関西学生サッカーリーグ（後期・第9節）

11月15日（土） 鶴見緑地球技場

第1試合 桃山大 vs 京産大

前期、惨敗した（1-8）とは思えぬ京産大だった。後期のスタートから徹底した守りを前面に、白星を積み重ねてきた京産大。前節、全勝びわこ大に土をつけた桃山大も守備の勝利といえたが、京産大DFはそれを上回った。会心の白星だったろう。桃山大が仕掛けた両サイドからの攻めに対し、京産大は中盤から激しいプレスをかけ、ゴール前は②渡辺将基、⑤吉川拓也が早い帰陣でことごとく桃山大の攻めを封じきった。一発カウンターにける攻めは、これまた堅守の桃山大DFに阻まれたが、前半36分、左からのつなぎが桃山大DFの反則を誘因、得たPKを⑩小笠原侑生が決め、貴重な得点を手中にした。

桃山大は前節の勝利の勢いを如実に表すスタートを切った。中盤の優位に支配してゴール前につなぎたかったのだろうが、クサビのパスを積極果敢な京産大DFに完全に封じられてしまった。後半半ばからめまぐるしい選手交代で中盤を厚くし、中央から、あるいはサイドからゴール前につなごうと試みたが、京産大DFを突破するまでに至らなかった。

（文：関西学連）

桃山大 0 $\begin{Bmatrix} 0-1 \\ 0-0 \end{Bmatrix}$ 1 京産大

得点(アシスト)者
36分 16 小笠原

第2試合 びわこ大 vs 同大

びわこ大 2 $\begin{Bmatrix} 0-0 \\ 2-0 \end{Bmatrix}$ 0 同大

得点(アシスト)者
68分 9 瀬古 (13 平野)
83分 28 澤西 (2 松津)

得点差ほど内容に差はなかった。両校とも攻守に激しいつばぜり合いを展開し、その中でびわこ大が後半23分に先制、38分にダメ押し点を加えてインカレ出場を決めた。記念すべき初出場である。「流れの中で点が取れない」(びわこ大・松田監督)の嘆きが払拭できたゲームでもあった。びわこ大は前半からノーマークのシュートをはずすなど、松田監督の嘆きを再三演じていたが、後半23分、投入した⑨瀬古朋宏が⑬平野甲斐からのパスを、38分にはこれまた交代選手の 28 澤西宏典が②松津徹也からのパスをさばいて得点した。いずれもパスがつながって決めるべきポジションの選手が決めたことに大きな意味がある。松田監督が求めていた得点パターンだった。

同大は悔しい敗戦。競り合いでは互角の内容だったが、サイド攻撃ではびわこ大より良かった。特に悔やまれるのは、びわこ大に先制を許した後半33分、左から単独ドリブルで持ち込んだ⑩楠神順平の強烈なシュートが右ポストにはじかれたこと。「たら、れば」は無意味だが、ここでの同点は、以後の展開をより白熱、内容を濃くしたろう。両校とも個々の力、組織力が生かされた好ゲームだった。

（文：関西学連）

11月16日（日） 三木総合防災公園陸上競技場

第1試合 関西大 vs 姫獨大

前節、関関戦を制し、インカレ出場へ王手をかけた関西大。最下位・姫獨大としては、ここに来て上位と当たり厳しい戦いとなった。

「積極的にシュートを打てば、何かが起こる！」試合前、関西大の川端秀和監督は選手達にこう語った。そして言葉は現実のものとなる。前半8分、MF⑭中村祐哉のドリブルシュートで幕開けた関西大のゴールラッシュ。その1分後には関西大の主砲・FW⑯金園英学が決め、完全に流れを掴んだ。その後もDFの裏を抜け、打てば入るといふ予測できない得点劇を重ね、36分には中村がハットトリックを達成。後半は疲れからボールの支配率も落ちたが、「浮き足立たないようにと、みんなピリピリしていた。」(中村)と、集中力を切らさず、最後はFW⑬前川亮のゴールという形で試合終了。インカレへの最後の切符を勝ち取った。

一方前半だけで6失点のビハインドを追った姫獨大は「攻守の入れ替わりについていけない」とGK①家木大輔が話すように、力の差を露呈してしまった。後半は立て続けの交代で建て直しを図り、特にDF 22 幸尾恭兵が中盤に入ってからボールが収まるようになるも「FWに仕事をさせられなかった。」と家木。最後まで、0というスコアは動かず大敗を喫し、1部残留へもう後がない状況となった。

（文：フリーライター 久住 真穂）

関西大 9 $\begin{Bmatrix} 6-0 \\ 3-0 \end{Bmatrix}$ 0 姫獨大

得点(アシスト)者
8分 14 中村
9分 19 金園
23分 14 中村 (19 金園)
32分 18 佐藤 (24 藤澤)
33分 19 金園 (18 佐藤)
36分 14 中村 (24 藤澤)
49分 18 佐藤 (3 宇佐美)
63分 3 宇佐美 (26 清水)
89分 13 前川 (26 清水)

第2試合 阪南大 vs 関学大

阪南大 3 $\begin{Bmatrix} 3-0 \\ 0-0 \end{Bmatrix}$ 0 関学大

得点(アシスト)者
32分 20 久野 (14 東)
35分 26 長瀬 (14 東)
40分 43 棚橋 (45 宮脇)

前節早くもインカレ出場を決めた阪南大。対する関学大は負ければインカレ出場が消滅するため、勝利が絶対条件だった。

後期、阪南大のチャンスメーカーとなっているMF⑭東浩史がこの試合も魅せた。「FKを練習させていたらCKもうまくなった」と須佐監督が話す東のCKに、DF⑳久野修平が飛び込み、先制点を挙げる。その3分後、東のやわらかいパスに反応したのはボランチのMF 26 長瀬圭佑。関学大の守備陣は東に引きつけられ、そこから生まれたスペースに長瀬が抜け、ドリブルでペナルティエリアまで持ち込みゴールを決める。さらにFW 43 棚橋雄介が決めると3得点。しかし前半終了間際、DF④吉川健太がファウルで一発退場。

後半は数的優位な関学大が巻き返しを図り、開始早々、一気に二人を交代し、FW⑪桑原透記、FW 27 桑原理介の兄弟でコンビを組む。しかし、一人少ない阪南大は、2年前ボランチをやっていたFW 45 宮脇達樹を中盤に下げ、練習でもやっていなかったというMF⑥井手口正昭がCBに入り急造DFラインが功を奏す。今節まで全身全霊で戦ってきた疲れからか関学大のレギュラー陣が精彩を欠いていたこともあり、後半も無失点で押さえた。この結果、関学大は最後までゴールネットを揺らすことはできずインカレ出場権を逃し、阪南大は優勝へまた一歩前進した。

（文：フリーライター 久住 真穂）

11月16日(日) 山城総合運動公園太陽が丘球技場B

第1試合 大院大 vs 大教大

大院大にとっては、勝てば、大教大を順位で上回り、残留へ大きく前進出来る試合。藤原義三監督も「もちろん勝ち点3。とにかくボトム2を回避する勝ち点まで持って行きたい。」と意気軒昂だったが、同時に「守りの整備がなかなか進まない。」と焦れた心境も語った。

前半は、多くの人が予想したように手堅い試合でスコアレス。しかし、後半に藤原監督の危惧が的中する。後半27分、大教大は鮮やかにサイドを崩し、最後はFW⑩田中俊一が決める。ここで、大教大の入口豊監督は、「守りに入るわけではないが、バランス良く無失点で終えなければならない。」というプランを持った。最近では、その堅いプランを実践出来ていた大教大だが、大院大の反発は厳しかった。そして後半42分にMF 28 平岡佑太が渾身のダイビングヘッドで大院大が同点に持ち込む。

そしてロスタイム4分。その90+3分に大教大のエース⑨森原慎之佑が個人技で叩き込み2-1とするが、90分+4分に大院大もMF 75 高橋周也が強引にヘッドで押し込んで再び同点。意地と意地のぶつかり合いは、引き分け。しかし、この結果はもちろん大教大に笑みを与えた。

(文: サッカーライター ハヤシ ヒロヒサ)

大院大 2 { 0-0 / 2-2 } 2 大教大

得点(アシスト)者
87分 28 平岡 (75 高橋)
89分 75 高橋

得点(アシスト)者
72分 16 田中 (10 三好)
89分 9 森原 (41 小林)

第2試合 立命大 vs 近畿大

立命大 7 { 1-1 / 6-0 } 1 近畿大

得点(アシスト)者

30分 38 藤田
55分 36 伊藤 (38 藤田)
64分 36 伊藤 (27 内藤)
70分 27 内藤
79分 36 伊藤 (38 藤田)
80分 36 伊藤 (28 前野)
89分 39 篠原 (26 雨森)

得点(アシスト)者

3分 2 金田 (7 枝本)

深刻な得点力不足に喘ぐ立命大に、大きな波を与える試合となった。

近畿大の田中幸雄監督は、「FW以外の選手で点が取れれば。」と試合前に希望を口にしていた。その期待通り、いきなり3分に、MF②金田英之があっさりゴールを決める。これで、近畿大のペースになるかと思われたのだが。26分に近畿大は退場者を出してしまう。ハーフタイムで修正するためにも、前半は持ちこたえたかった近畿大だが、30分に立命大FW 38 藤田浩平が決める。

それでもタイスコアで前半が終わり、後半は互いに戦い方をリセットして難しい試合になる可能性もあった。と言うのも立命大は相手が減って守りを固められた場合に、個人で打開出来る選手が居ないため。実際、関学大戦はしっかり守られてからのカウンターで敗れている。

しかし、この試合は、攻撃陣が大爆発。時系列で書き込むスペースが無いほど。特に目立ったのは、交代出場のFW 36 伊藤了。後半だけで4ゴールを量産。しかも落ち着いたゴールばかりでセンスの良さも光った。7-1というスコアは、精神的にもそうだが、得失点差の部分で立命大に大きなアドバンテージをもたらした。

(文: サッカーライター ハヤシ ヒロヒサ)

~第9節の風景~

放ったシュートを全て決めて4得点! チームの勝利に大きく貢献!! ◆ 伊藤 了 (1年) ◆



11月16日(日) 太陽が丘B <立命大-近畿大>

■ 撮影: 立命スポーツ編集局 藤田 望 ■